

CJR CENTER NEWS | Vol. 11



弘前大学地域共同研究センター

Center for Joint Research, Hiroasaki University

目次

巻頭言

「理工学部からの産学官連携」

理工学部長 南條宏肇	1
地域共同研究センタースタッフの紹介	2
平成16年度 客員教授の紹介	3
弘前大学東京事務所・分室	8
平成16年度 共同研究受入状況	9
平成16年度 受託研究受入状況	11
センター日誌.....	13
地域共同研究センター運営委員会委員名簿.....	22
編集後記.....	22
弘前大学位置図.....	23



国立大学法人弘前大学設置記念イベント

「見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学」

弘前大学とは「どんな大学なのか?」ということを文字通り「近づいて見てみて、直接質問を飛ばしてみて、そして直接人や物に触れて見てもらおう」という強いねらいのもと、平成16年9月6日に弘前文化センターにて開催されました。写真は、開場前の「個人研究・学内研究会のパネル展示」の様子です。悪天候にも関わらず、たくさんの方々にご来場いただきました。

「理工学部からの産学官連携」



理工学部長 なんじょう ひろただ
南條 宏肇

16年度は、産学官連携にとっては非常に大きな転換点であったといえると思います。

まず世界的に見るならば、21世紀に入り、地球温暖化などの環境破壊や続発するテロ事件、さらにはバブルがはじけ低迷する経済不況など、20世紀の特徴であった大量生産・大量消費そして使い捨てる文明はもはや限界に達し、大きな変革を迫られています。

このような状況の中で、昨年の16年から、国立大学は法人化され、教育・研究体制が大きく変わりました。予算は、運営費交付金という枠をはめられて、毎年マイナス1%のシーリングを受け、減額を余儀なくされております。交付金の中に教育費は含まれますが、研究費はカットされ、外部資金などによって自分たちで稼がなければならなくなりました。

また国の財政難による三位一体改革によって、地方自治体は地方交付税、および補助金カットを受け、国への依存体制を脱却して自立しなくてはならないようになってきました。

このような、時代的・地域的背景の中で、大学の果たす役割も大きく変わってきています。すなわち青森のような地方は、国の中央集権から脱却して、自立した産業を創造することが必要となり、地域活性化の頭脳としての大学の役割も今まで以上に要求されるようになって来ています。青森県、特に津軽・東青森地区の産業

基盤の弱い地域では、中央依存体質から脱却して、今までのような中央の後追いでない、地域の特色を生かした、新しい産業を創出し、雇用の場を地元で確保することが急務の課題となってきました。

このような状況下で、理学と工学両方の分野のシーズをもち、また地域の研究にとって必要とされる理工融合のニーズに対応できる理工学部は、今後の産学官連携に対してはきわめて重要な位置にあると考えています。

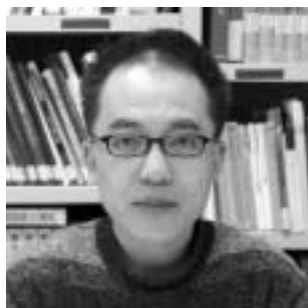
そこで理工学部としては、

1. 研究室公開、データベース整備
 2. 学部長裁量経費における共同研究の優先
 3. 産学官交流会、組織化への積極的参加
- など、地域との連携への取り組みを行ってきました。また、16年から博士後期課程が設立され、地元との共同研究はますます促進されていくものと期待しています。

地域が発展しないと大学そのものも、発展しません。理工学部としては、今後も積極的に産学官連携を強めて、地域活性化に取り組んでいきたい、また地域活性化のための優秀な人材の育成にも心がけていきたいと考えています。

地域共同研究センタースタッフの紹介

平成16年8月に新たに兼任教員を2名迎えました。



氏名 芳野 明(よしの あきら)

生年月 昭和37年10月

所属 教育学部美術教育講座
教育学部附属教育実践総合センター
地域共同研究センター

職名 助教授

e-mail yoshino@cc.hirosaki-u.ac.jp

専門分野および研究概要

美術理論・美術史、美術館論。

- ・イタリア・ルネサンス期の美術、とくに彫刻に関する研究
- ・日本近代美術、とくに幕末から明治にかけて活躍した日本の油彩画家の草分けである高橋由一に関する研究
- ・日本の近現代彫刻、とくに具象彫刻に関する研究。
- ・美術館活動全般に関する研究
- ・視覚イメージや「美術」という概念が持つ機能に関する研究

協力できる内容

- ・組織のイメージ作りをはじめとする、ヴィジュアル関連事項への助言
- ・美術品の取り扱いや保護に関する助言
- ・展覧会開催への助言



氏名 三浦 富智(みうら とみさと)

生年月 昭和43年12月

所属 医学部保健学科検査技術科学専攻
生体機能検査学講座
地域共同研究センター

職名 講師

e-mail tomisato@cc.hirosaki-u.ac.jp

専門分野および研究概要

- ・リンゴポリフェノールの抗癌作用
リンゴポリフェノールによる抗腫瘍機序の解析
- ・抗菌薬の開発
抗菌物質の検索および応用化研究
- ・がん自動診断装置の開発
良性・悪性鑑別アルゴリズムの開発に関わる基礎的研究

協力できる内容

- ・機能性物質の開発について
- ・生物学的機能評価について

センター長 加藤 陽治(教育学部教授・兼任)

副センター長 香取 薫(人文学部教授・兼任) 高垣 啓一(医学部医学科教授・兼任)

専任教員 内山 大史(助教授)

兼任教員 北原 啓司(教育学部教授・兼任) 芳野 明(教育学部助教授・兼任)

三浦 富智(医学部保健学科講師・兼任) 野坂 大喜(医学部保健学科助手・兼任)

長尾 至孝(理工学部助教授・兼任) 宮入 一夫(農学生命科学部教授・兼任)

産学官連携コーディネーター 野呂 治 知的財産管理アドバイザー 小野寺 徳郎

事務員 新谷 哲雄(学術情報部社会連携課長・兼任) 佐々木 輝雄(学術情報部社会連携課 産学連携係長)

山田 修平(学術情報部社会連携課 産学連携主任)

古川 祥子(学術情報部社会連携課 産学連携担当 知的財産創出本部 事務補佐員)

天内 陽子(地域共同研究センター 事務補佐員)

産学官連携協力員 田代 由紀子

平成16年度 客員教授の紹介

民間の技術者・管理者と大学研究者との交流を促進し、研究指導および講演会等を通して、大学ならびに地域の発展に寄与していただくことを目的として学外から人材を登用しております。



氏名 北澤美達 (きたざわ よしたつ)

生年月 昭和14年12月

[略歴]

昭和39年 慶應義塾大学経済学部卒業

昭和42年 八戸市職員採用

主として企画、経済部門に従事。

平成4年 環境衛生部長

平成6年 企画部長

平成10年 経済部長

平成12年 定年退職。

(株)八戸インテリジェントプラザ
常務取締役所長

[コメント]

産業経済の変化に対応しつつ豊かな地域社会の実現を図るため、八戸地域は1984年自前のテクノポリス開発構想である「高度技術産業都市」建設を打ち出し、翌年その中核的推進機関(財)八戸地域高度技術振興センターを設立しました。また、国が進めるいわゆる産業の頭脳部分の地方分散政策に則り、産業高度化支援機関としての(株)八戸インテリジェントプラザを設立し、受け皿であるハイテクパーク内に中核支援施設を整備し管理運営してきました。私はこの20年何らかの形でこれらに係ってきましたが、中心課題は産学官連携、異業種交流、そして産学共同研究開発の推進であります。この度地域共同研究センターの先生方と共に勉強していくことになりました。よろしく願います。



氏名 齋藤 正博 (さいとう まさひろ)

生年月 昭和24年2月

[略歴]

昭和53年 東北大学院工学研究科博士課程(機械)修了

平成10年 株式会社東芝原子力材料・化学技術部長

平成12年 八戸工業大学工学部機械工学科教授

平成13年 八戸工業大学機械情報技術学科教授

平成13年 日本機械学会評議員

[コメント]

小職、団塊の世代です。圧倒的な数で戦後日本の復興を担ってきました。東京オリンピックの成功と高度成長、これも我々の力だと自負しています。1990年代のいわゆる空白の10年間、バブル崩壊後の経済低迷と自信喪失、多くの企業がその生産拠点を東南アジアや中国に求めました。合理化の嵐の中、団塊の世代の多くの技術者、技能者が第一線から退きました。しかし、ここきて、中国オリンピック開催決定と重なるような突然の中国特需、日本の製造業も息を吹き返しました。団塊の世代の復権です。ばらばらになった技術を次の世代に継承しなければなりません。これに失敗した企業は大事故を起こしたり、競争に負け始めています。団塊の世代はまだまだ休めません、日本のために貢献する道を探し続けます。

平成16年度 客員教授の紹介



氏名 佐藤 義夫(さとう よしお)

生年月 昭和18年6月

[略歴]

昭和42年 山形大学工学部化学工学科卒業
 平成7年 東北大学工学博士
 昭和42年 東北紘化株式会社入社
 平成7年 八戸工業高等専門学校物質工学科教授
 平成12年 八戸工業高等専門学校総合技術教育
 研究センター長
 平成15年 八戸工業高等専門学校地域
 テクノセンター長

[コメント]

弘前大学は、学術研究と有為なる人材の養成を通じて社会に大きく貢献され、特に、青森市・八戸市には「サテライト」を開設し「地域の生涯学習機会の拠点」として、幅広い人材の育成に寄与されておられます。近年、研究成果の事業化や技術移転等を通じた、より短期的・直接的な貢献が求められ、所謂、第三の使命としての「社会貢献」が要請されております。政府等の主催による「第4回産学官連携サミット」の共同宣言では五項目の取り組みが採択され「地域の科学技術振興」の推進はその一つであり、「地域貢献や産学官連携などの社会貢献機能」の充実が謳われております。弘前大学地域共同研究センターに要求されるのは「産学官連携」の拠点として豊富な人材と蓄積されている研究の活用と思われまます。地域産業界のニーズを的確に捉え「知的特区の実現や地域クラスターの形成発展」へと展開し主導することが強く望まれるようです。大きな課題と思われまます、指導力を発揮して地域経済発展に貢献して頂きたく益々のご発展をお祈り申し上げます。



氏名 新開 紀彦(しんかい のりひこ)

生年月 昭和19年2月

[略歴]

昭和41年 東北大学理学部物理学科 卒業
 昭和54年 米国Pennsylvania州立大学大学院
 材料科学部セラミックス科学科博士課程 修了
 昭和41年 株式会社旭硝子入社(中央研究所)
 昭和62年 株式会社旭コマグへ出向
 平成9年 株式会社旭コマグ 常務取締役就任
 平成13年 株式会社旭硝子退社
 青森県工業試験場 場長
 平成14年 弘前大学大学院地域社会研究科非常勤
 講師(平成16年3月まで)
 平成15年 青森県工業総合研究センター
 弘前地域技術研究所 所長
 平成16年 青森県工業総合研究センター
 弘前地域技術研究所 定年退職
 平成16年 財団法人21あおもり総合支援センター
 コーディネーター

[コメント]

今ほど産学官連携が重要になっている時期はない。研究開発はお金のかかる仕事であり、実用化においてもリスクを伴う。そこで効率の良い産学官連携が望まれる。重要なことは、それぞれの役割分担が如何に行われるかにあり、お互いの強味が十分発揮されなければならない。一般的には大学のシーズと企業のニーズの結び付きが大前提であるが、実際には、基礎的な研究成果を製品化に結び付ける為に数多くのプロセスが要求される。量産化が成功するには、そのコストパフォーマンスと品質保証が大きなカギとなる。特に最近注目されているナノテクノロジーなどでは如何に生産に移行できるかが重要である。これまでの経験を生かし、微力ながら地域社会へ貢献できればと考えている。



氏名 谷田 拓男 (たにだ たくお)

生年月 昭和29年1月

[略歴]

昭和51年 立教大学理学部物理学卒業。
昭和54年 成蹊大学大学院工学研究科情報処理専攻博士前期課程修了(工学修士)。
昭和54年 成蹊大学工学部経営工学科助手。
平成7年 弁理士試験合格。
平成8年 谷・阿部特許事務所勤務。ソフトウェア、移動体通信、画像処理等の特許出願、中間処理、異議申立、審判、鑑定、外国出願関係。
平成10年 高田・葛野国際特許事務所勤務。半導体関連の特許出願、中間処理、異議申立、外国出願関係。
平成14年 独立してタニダ国際特許事務所を設立。現在に至る。

平成13年度日本弁理士会ソフトウェア委員会委員長、平成15年度日本弁理士会研修所先端科学技術研修部部長。

[コメント]

仕事柄、色々な大学の先生方のお話をお伺いすることがあります。研究と教育だけでも大変なのに、この上特許出願までは一寸、というようなお話をお伺いすることは稀ではありません。

弁理士は、特許出願するものと決定され、ある程度纏められた発明の明細書を作成するだけではなく、発明のより上流工程、即ち特許出願が決定される前のアイデアを纏める段階から関与することが重要であると言われていました。このような関与の仕方であれば、より良い明細書を作成することができるだけでなく、大学の先生方の特許出願に対する時間的負荷(?)を減らすことができるのではないかと思います。貴知的財産創出本部における弁理士による発明の二次評価は、そのような関与を実現する一つの良い方法であると思います。

今後、良い特許を多数取得し且つ有効利用することができるよう、一弁理士として微力ながら勤めさせて頂ければと念じております。



氏名 辻田 幸史 (つじた たかし)

生年月 昭和39年3月

[略歴]

平成元年 大阪市立大学大学院理学研究科前期博士課程修了(有機化学専攻)
株式会社ミドリ十字入社
(知的財産部門配属)
平成6年 弁理士試験合格
平成10年 同社退職
ジーベック国際特許事務所(東京)入所

[コメント]

「大阪生まれで大阪育ちの自分がどこでどうなって弘前なんだろう!？」と本当に不思議な気がするのですが、これも人の縁なのでしょうから、この縁は大事にしたいですね。私が学生のころは、「とうきょうとつきよきよかきよく」なんていう早口言葉ぐらいにしか登場しなかった特許(知的財産)が、今や大学で当たり前を知っておかねばならないくらい身近な言葉になっているのは隔世の感がありますが、弘前大学の先生方、学生の皆さんが少しでも知的財産に親しみをもってもらえるようにがんばります。また、弁理士という職業の面白さも機会があればお伝えしたいと思います。なお、私事ながら、仕事のストレスは阪神タイガースで発散しております。よろしく申し上げます。

平成16年度 客員教授の紹介



氏名 鄭 衆喜 Zhongxi Zheng(てい しゅうき)

生年月 昭和42年9月

[略歴]

- 平成 元年 清華大学工学部自動化学科電気電子専攻
 平成 4年 中国科学院大学院工学部電子学科画像処理および人工知能専攻
 平成 5年 中国科学院自動化研究所知能ロボット触覚システム開発
 平成 9年 株式会社シム 半田付け自動検査装置開発
 平成 11年 株式会社日立製作所にて PC 設計開発
 平成 12年 (米)IBM社メディカル画像処理および高速3次元画像表示アルゴリズムの開発
 (米)シリコンバレーにあるKLA-TENCOR社にて半導体関係画像処理および画像認識アルゴリズムの研究開発
 平成 13年 株式会社ダイレクトコミュニケーションズにて医療用画像処理システムの研究開発

[コメント]

初めまして。このたび弘前大学の客員教授に就任しました鄭と申します。

私は中国で生まれ、大学院までを北京で過ごし、現在アメリカのシリコンバレーにて最先端の画像処理の研究開発を行っております。

私が一番はじめに弘前を訪れたのは、2001年11月でした。弘前大学医学部保健学科の佐藤達資研究グループに、講演を依頼され、弘前大学で講演したのがきっかけです。その時の第一印象は「弘前はシリコンバレーと雰囲気似ているな」と思いました。40年前まではスタンフォード大学とりんごとぶどうの街でした。今でもシリコンバレーの郊外にはりんご畑があります。その後、大学発ベンチャー企業が育ち、世界的なIT産業の集積地になりました。弘前大学がスタンフォード大学と位置づけられれば、非常に似た環境になると思います。弘前大学発ベンチャー企業の株式会社ダイレクトコミュニケーションズも世界的にもトップクラスの技術を有していると聞きます。この弘前大学から世界に発信できる上で何かしらのお手伝いが出ればと思っています。



氏名 富沢 知成(とみさわ ともなり)

生年月 昭和33年10月

[略歴]

- 昭和 58年 東北大学農学部食糧化学科卒業
 昭和 59年 青森県畑作園芸試験場技師
 平成 4年 株式会社八戸インテリジェントプラザ 研究員
 平成 12年 弁理士合格
 平成 13年 富沢特許事務所
 平成 14年 株式会社八戸インテリジェントプラザ 知的所有権アドバイザー
 平成 15年 株式会社八戸インテリジェントプラザ 知的財産アドバイザー

[コメント]

八戸に軸足を置いて、特許事務、相談対応、講演等を行っております。弁理士としては今年でやっと5年目ですが、スペシャリストというよりはジェネラリストであることをまず求められる「地方弁理士」の例にもれず、私も、一部技術分野を除くほぼ全分野の特許・意匠商標・外国の各出願手続に日夜携わっております。なかなか自分が「売る」べき専門を持ってない状況であり、目下、自分のスタイルを模索中です。そんな中、最近は高校や短大での単発的な講座を年20回ほど行っております。子どもたちと接しながら彼らに何かを教え、こちらも違う何かを教わるという仕事に、他では得難い喜びを感じており、今後もじっくり取り組みたいと思います。



氏名 山口 紀久 (やまぐち のりひさ)

生年月 昭和15年10月

[略歴]

昭和41年 東京工業大学大学院修士課程修了
帝人株式会社入社
平成3年 帝人株式会社在宅医療事業部仙台営業
所長
平成6年 帝人在宅医療東日本株式会社代表取締役
役
平成12年 帝人株式会社退職
財団法人21あおり産業総合支援セン
タープロジェクトマネージャー
平成13年 日本新事業支援機関協議会 JANBO イ
ンストラクター
財団法人日本立地センター IM インス
トラクター

[コメント]

ある機能を付加した福祉用具を企業と共同開発し
ている先生がいます。その新しい機能については、
某大学の大学発ベンチャーが開発を終えています
ので、その技術をそのまま借用するように提案し
ました。

たとえ同じようなものになっても、自分たちの力
で開発したい、との答えでした。研究者が陥りや
すい、このような病気をNIH (not invented
here) 症候群というのだそうです。

企業の研究者にはよくありがちでしたが、まさか
大学の研究者にまで蔓延しているとは思いません
でした。

複数の県で酒造好適米やうどん好適麦などの開発
にしのぎを削っていますが、本物の独創的な研究
はできないのでしょうか？



氏名 小野寺 徳郎 (おのでら のりお)

生年月 昭和20年11月

[略歴]

昭和46年 東京工業大学大学院修士課程修了
新日本製鐵株式会社入社
室蘭製鐵所勤務
昭和63年 本社技術部条鋼技術部条鋼サービス室
部長代理
平成4年 知的財産部調査部長
平成8年 株式会社日鉄技術情報センター出向
知的財産調査部主任研究員
平成13年 知的財産調査部長
平成15年 発明協会 嘱託職員
弘前大学知的財産管理アドバイザー
弘前大学客員教授

[コメント]

平成8年の頃、調査会社で知財関係の調査を担当し
ていた時、NEDOの委託事業で米国、欧州におけ
る大学特許の取扱に関し調査をしたことがあります。
その時、私は米国を担当し、MIT、ハーバード、
カルフォルニア、スタンフォードの各大学を訪問、
その目覚ましい技術移転の成果に圧倒され、且つ、
日米の文化風土の差を肌で感じました。その後、
日本でもTLO設立が叫ばれ、日本版バイドール法
等も整備され、現在に至っているのは御存知の通
りです。私が知財創出本部創設のお手伝いをした
い、とこの道を選択しましたのも当時得た新鮮な
感覚を何とか日本においても実現したいと願って
いるからです。お陰様で特許出願件数もなんとか
出るようになってきています。今後は、これらの
発明等をいち早く社会に還元すべく技術移転する
ことに全力を尽くしたいと思っています。

弘前大学東京事務所・分室

東京事務所

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2-1
住友生命八重洲ビル5階
青森県東京ビジネスプラザ内
TEL/03-5201-7004
開業時間 / 月曜日から金曜日までの9:30～17:00

皆様こんにちは、東京事務所の産学官連携コーディネーターの宇野一男です。

東京事務所は東京駅八重洲側の南口近くにあります。写真でご覧のように事務所からはいつも向こう側に青森へ向う東北新幹線と丸ビルが見えます。その左側には文部科学省ビルが並んでいます。

東京事務所は、首都圏における産学官連携や学生への就職支援等の活動拠点として平成16年4月に設置されました。一方、江戸川区船堀には「コラボ産学官」入居の他の15大学・機関の事務室とならんで弘前大学東京事務所分室を設けており、シーズの発表や展示会、産学官連携の会合に利用されています。

ところで、「首都圏」というのは埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県の一都三県のことです。総生産額は青森県の約30倍あります。首都圏には人も多く、東京だけで就業人口は約600万人もいます。ですから、人や企業のことでは青森よりもはるかに多くの情報を得ることができるのです。

東京事務所分室

〒134-0091 東京都江戸川区船堀三丁目5-24
朝日信用金庫船堀センター 6階
コラボ産学官 in Tokyo内
TEL/03-5696-9412
開業時間 / 月曜日から金曜日までの9:30～17:00



私は今年の7月からここで勤務しておりますが、同じ青森県ビジネスプラザのフロアにある青森県東京事務所および青森県ビジネスサポートセンターと協力しながら、首都圏企業を中心に共同研究や学生就職活動の支援の仕事を行っています。

現在、東京事務所の利用を促進するため、大学関係者であれば、自由に利用できるようにしています。弘前大学の皆様が東京事務所を利用させていただいて、素敵な出会いやハッピーな思い出を胸に、新たな一歩とされることを期待しております。

東京事務所・分室では産学官連携に会議室やホールが利用できます



利用施設

東京事務所 ミーティングルーム(4人)
東京事務所分室 分室(6人)会議室(20人)

申込受付及び問い合わせ先

弘前大学学術情報部社会連携課
〒036-8560弘前市文京町1番地
TEL/0172-39-3904,3910 FAX/0172-39-3919
E-mail jm3904@cc.hirosaki-u.ac.jp
URL <http://www.hirosaki-u.ac.jp>

平成16年度 共同研究受入状況

平成17年2月現在

学部名	研究代表者	企業等名
人文学部	後藤 寛	株式会社興和
教育学部	加藤 陽治	キリンビール株式会社基盤技術研究所
教育学部	加藤 陽治	第一化学株式会社
教育学部	北原 晴男	川崎染工場・津軽天然藍染研究会
教育学部	長南 幸安	株式会社南部医理科
医学部医学科	阿部 由直	日本原燃株式会社
医学部医学科	伊藤 悦朗	キリンビール株式会社
医学部医学科	兼子 直	株式会社シバタ医理科
医学部医学科	兼子 直	財団法人愛成会
医学部医学科	高垣 啓一	株式会社角弘
医学部医学科	高垣 啓一	和光純薬工業株式会社臨床検査薬研究所
医学部医学科	早狩 誠	株式会社シバタ医理科
医学部医学科	奥村 謙	かねさ株式会社
医学部医学科	保嶋 実	ユニバース工業株式会社, NTTドコモ
医学部保健学科	野坂 大喜	株式会社ダイレクトコミュニケーションズ
医学部保健学科	佐々木 甚一	江崎グリコ株式会社菓子開発研究所
医学部保健学科	宮越 順二	日本シグマックス株式会社
医学部保健学科	宮越 順二	日本シグマックス株式会社
医学部保健学科	宮越 順二	東京電力株式会社
医学部保健学科	宮越 順二	関西電力株式会社研究開発室
医学部保健学科	宮越 順二	関西電力株式会社研究開発室電力技術研究所
医学部保健学科	柏倉 幾郎	大塚製薬株式会社
医学部保健学科	宮越 順二	株式会社NTTドコモ
医学部保健学科	藤岡 美幸	ユニバース工業株式会社, NTTドコモ
医学部保健学科	岩崎 晃	総合計画工業株式会社
医学部保健学科	金沢 善智	アロン化成株式会社
医学部保健学科	金沢 善智	株式会社シルバーサービス
医学部附属病院	対馬 敬夫	大鵬薬品工業株式会社育薬研究所
理工学部	田尻 明男	日本ハルマ株式会社
理工学部	吉澤 篤	財団法人21あおもり産業総合支援センター
理工学部	田尻 明男	株式会社環境工学
理工学部	田尻 明男	東北化学薬品株式会社
理工学部	田尻 明男	株式会社兼建興業
理工学部	伊藤 昭彦	株式会社初田製作所
理工学部	児玉 安正	独立行政法人宇宙航空研究開発機構
理工学部	長岐 正彦	第一化学株式会社

平成16年度 共同研究受入状況

学部名	研究代表者	企業等名
理工学部	岡崎 禎子	日産自動車株式会社総合研究所
理工学部	古屋 泰文	財団法人浦項産業科学研究所
理工学部	長尾 至孝	有限会社マシス
理工学部	深瀬 政秋	株式会社I N . C O M
理工学部	真下 正夫	並木精密宝石株式会社
理工学部	牧野 英司	並木精密宝石株式会社青森・黒石工場
理工学部	真下 正夫	並木精密宝石株式会社青森・黒石工場
理工学部	中島 健介	太平洋セメント株式会社
理工学部	岡崎 禎子	青森リバーテクノ株式会社
理工学部	南條 宏肇	佐々木電機工業株式会社
理工学部	稲村 隆夫	三菱重工株式会社名古屋誘導推進システム製作所
理工学部	小野口 一則	株式会社東芝
理工学部	飯倉 善和	国土環境株式会社
理工学部	小野 俊郎	日本電信電話株式会社マイクロシステムインテグレーション研究所
理工学部	澤田 英夫	株式会社I N A X
理工学部	峯田 貴	株式会社島津製作所
農学生命科学部	豊川 好司	日本ハルマ株式会社
農学生命科学部	嵯峨 紘一	株式会社長慶
農学生命科学部	齊藤 寛	ケイ・エイム・ナチュラル株式会社
農学生命科学部	長田 恭一	株式会社シバタ医理科
農学生命科学部	姫野 俵太	独立行政法人理化学研究所
農学生命科学部	姫野 俵太	独立行政法人理化学研究所
農学生命科学部	戸羽 隆宏	社団法人全国農協乳業協会
農学生命科学部	城田 安幸	株式会社ニチロ青森工場
地域共同研究センター	加藤 陽治	株式会社エル・アイ・アイ
地域共同研究センター	加藤 陽治	株式会社エル・アイ・アイ
地域共同研究センター	高垣 啓一	株式会社エル・アイ・アイ
地域共同研究センター	加藤 陽治	大間漁業協同組合
地域共同研究センター	香取 薫	有限会社ピズコム・モバイル
地域共同研究センター	加藤 陽治	株式会社エル・アイ・アイ
地域共同研究センター	野坂 大喜	ユニバース工業株式会社
地域共同研究センター	三浦 富智	株式会社ダイレクトコミュニケーションズ
地域共同研究センター	野坂 大喜	株式会社ダイレクトコミュニケーションズ

平成16年度 受託研究受入状況

平成17年2月現在

学部名	研究代表者	企業等名
教育学部	加藤 陽治	財団法人21あおもり産業総合支援センター
教育学部	加藤 陽治	株式会社弘前産業開発センター
教育学部	北原 啓司	弘前市
医学部医学科	四ッ柳 高敏	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	吉原 秀一	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	中根 明夫	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	中根 明夫	独立行政法人農業・生物特定産業技術研究機構動物衛生研究所
医学部医学科	中根 明夫	独立行政法人農業・生物特定産業技術研究機構動物衛生研究所
医学部医学科	伊藤 悦朗	青森県
医学部医学科	伊藤 悦朗	青森県
医学部医学科	伊藤 悦朗	青森県
医学部医学科	兼子 直	国立精神・神経センター
医学部医学科	兼子 直	独立行政法人日本学術振興会
医学部医学科	高垣 啓一	青森県
医学部医学科	高垣 啓一	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	今 淳	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	柿崎 育子	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	石橋 恭之	株式会社弘前産業開発センター
医学部医学科	奥村 謙	国立循環器病センター
医学部医学科	大山 力	独立行政法人科学技術振興機構
医学部医学科	八木橋 操六	国立精神・神経センター
医学部医学科	石原 弘規	財団法人21あおもり産業総合支援センター
医学部保健学科	中村 敏也	株式会社弘前産業開発センター
医学部保健学科	宮越 順二	財団法人テレコム先端技術研究支援センター
医学部保健学科	柏倉 幾郎	株式会社弘前産業開発センター
医学部保健学科	宮越 順二	財団法人テレコム先端技術研究支援センター
医学部保健学科	三浦 富智	独立行政法人科学技術振興機構
医学部附属病院	保嶋 実	住友製薬株式会社
医学部附属病院	保嶋 実	大日本製薬株式会社
医学部附属病院	保嶋 実	第一製薬株式会社
医学部附属病院	水沼 英樹	青森県
医学部附属病院	樋口 毅	株式会社弘前産業開発センター
医学部附属病院	花田 裕之	財団法人循環器病研究振興財団
理工学部	田中 和夫	青森県
理工学部	田中 和夫	青森県
理工学部	田中 和夫	弘前市

平成16年度 受託研究受入状況

学部名	研究代表者	企業等名
理工学部	須藤 新一	株式会社弘前産業開発センター
理工学部	糠塚 いそし	株式会社弘前産業開発センター
理工学部	川上 淳	財団法人21あおもり産業総合支援センター
理工学部	森 聡明	財団法人21あおもり産業総合支援センター
理工学部	佐藤 裕之	財団法人21あおもり産業総合支援センター
理工学部	南条 宏肇	株式会社弘前産業開発センター
理工学部	中澤 日出樹	青森県
農学生命科学部	工藤 明	青森県東地方農林水産事務所
農学生命科学部	東 信行	東北農政局津軽農業水利事務所
農学生命科学部	泉 完	東北農政局津軽農業水利事務所
農学生命科学部	工藤 明	東北農政局津軽農業水利事務所
農学生命科学部	澁谷 長生	田代町
農学生命科学部	塩崎 雄之輔	青森県
農学生命科学部	青山 正和	青森県水産総合研究センター
農学生命科学部	澁谷 長生	東北農政局
農学生命科学部	長田 恭一	青森県ふるさと食品研究センター
農学生命科学部	谷口 建	社団法人青い森農林振興公社
農学生命科学部	工藤 明	東北農政局
農学生命科学部	佐野 輝男	タカラバイオ株式会社
農学生命科学部	吉田 孝	株式会社弘前産業開発センター
農学生命科学部	豊川 好司	株式会社エドヴィック
農学生命科学部	谷口 建	株式会社新農村総合コンサルタンツ
農学生命科学部	宮入 一夫	財団法人21あおもり産業総合支援センター
農学生命科学部	佐野 輝男	青森県
農学生命科学部	谷口 建	東北農政局
生涯学習教育センター	藤田 昇治	青森県
地域共同研究センター	加藤 陽治	農林水産省
地域共同研究センター	野坂 大喜	財団法人21あおもり産業総合支援センター

センター日誌

平成15年12月～平成17年1月

12月4日	産学連携に関する打ち合わせ（東京都）	9日	第1回あおもり・バイオマス利活用総合戦略会議（青森国際ホテル 2階孔雀の間） 青森県農林水産部
9日	アグリビジネス創出産学官連携シンポジウム（仙台市） 展示内容（パネル）： 1．りんご粕からのペクチンオリゴ糖製造方法に関する研究 2．りんごポリフェノールのin vivo および in vitro における抗腫瘍効果 3．カボチャに含まれるアンジオテンシン変換酵素阻害物質の精製 4．新しい素材としての軟骨型プロテオグリカン 東北大学でのIP会議システム視察		2004あおもりバイオマス推進フォーラム テーマ：バイオマス・あおもりの創造-青森発・新バイオマスビジネス創出の可能性を探る- 主催：弘前大学，青森県市町村戦略会議，青森県 場所：青森国際ホテル「万葉の間」
10日	弘前大学と三八，上北，下北地域企業等との情報交換会出席（八戸市）		産学官民の連携強化事業（東京都）～10日
11日	スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会 産学官民の連携強化事業（東京都）～13日	13日	「ビジネスプラン・コンペティション2003」 第3回選考委員会（青森国際ホテル 3階孔雀の間） 財団法人21あおもり産業総合支援センター
12日	第7回起業フォーラム（東京都） 産学官連携推進事業構築等に伴う打ち合わせ（青森市）	14日	りんご産業クラスター形成研究会第2回事業分科会 1．りんご生産分科会 2．観光資源としてのりんご分科会 産学官民の連携強化事業（青森市）
15日	産学官連携推進事業構築等に伴う打ち合わせ（青森市）	15日	第3回弘前産業振興懇談会 産学官民の連携強化事業（青森市）
16日	地域・一日知的財産本部～知的財産を語る夕べ～（東京） 第7回大学・高専と青森県工業会との意見交換会（青森市）	16日	りんご産業クラスター形成研究会第2回事業分科会 4．りんご加工残さ有効利用分科会 産学官民の連携強化事業（大鰐町）
18日	産学官民の連携強化事業（東京都）～20日 産学官連携推進事業構築等に伴う打ち合わせ（青森市）	22日	総務省「戦略的研究開発推進制度」説明会（セミナー室） 総務省東北総合通信局 機器分析センター運営委員会
19日	地域共同研究センター運営委員会	23日	産学官連携コーディネーター第6回全国会議 東北大学（仙台）
22日	産学官民の連携強化事業（五所川原市）	26日	客員教授会議
24日	研究開発戦略会議 青森県工業総合研究センター	27日	医療・健康・福祉産業フォーラム 弘前商工会議所会館 あおもり健康福祉機器開発協議会
25日	第2回弘前産業振興懇談会 機器分析センター運営委員会	28日	平成15年度第3回産学官連携・戦略的研究開発プロジェクト会議審査委員会（ラ・プラス青い森4階「ル・シェル」） 財団法人21あおもり産業総合支援センター
26日	産学官連携推進事業構築等に伴う打ち合わせ（八戸市）		
1月 7日	産学官民の連携強化事業（東京都）～9日		

センター日誌 平成15年12月～平成17年1月

29日	地域共同研究センター教官会議 第2回ナノテク・ステアリング会議（アップルパレス青森 3階「ねぶたの間」 青森県商工労働部	19日	産業技術総合研究所東北センター 一般公開（仙台市） 「東北産学官連携研究棟(とうほくOSL)」 のオープン記念式典 第4回弘前産業振興懇談会
2月 2日	産学官民の連携強化事業（十和田市）～4日	20日	第2回環境調和型リンゴリサイクル研究会 （弘前プラザホテル） 青森県工業総合研究センター
5日	地域先導研究成果発表会 （アラスカ会館3階「エメラルド」） 財団法人21あおもり産業総合支援センター 東北地区セミナー「知的財産の取扱について」 産学官民の連携強化事業（深浦町）	23日	産学官民の連携強化事業（むつ市）～24日
7日	青森県地域結集型共同研究事業中間成果報告会（よねくらホテル 2階 ベルサイユの間） 「大画面フラットパネルディスプレイの創出」 財団法人21あおもり産業総合支援センター	24日	NICHeセミナー
9日	政策研究助成専門委員会（青森市男女共同参画プラザ企画ワーク室2（アウガ5階）） あおもり県民政策ネットワーク	25日	アグリミーティング・知事と語る「津軽・生命科学活用食料特区」(ホテルニューキヤッスル) 主催：津軽広域商工連合 開会挨拶 津軽広域商工連合会長 新渡戸満男 地元挨拶 弘前市長 金澤隆 弘前大学長 遠藤正彦 講演会・説明会 「生かそう 規制緩和！津軽・生命科学活用食料特区」青森県知事 三村申吾 「りんご園地の規模拡大を計画」道の駅「なみおか」アップルヒル駅長 長谷川雄作 「弘前大学の研究施設の状況」弘前大学地域共同研究センター長 加藤陽治 意見交換会
10日	第7回東北大学NICHeセミナー「国立大学法人化のインパクト」(仙台市) 遠隔相談システム導入等に関する打ち合わせ（仙台市） 第6回あおもり健康福祉機器開発協議会幹事会（弘前商工会議所会館203室） あおもり健康福祉機器開発協議会	26日	青森県工業会との懇談会（教室）
12日	ビジネスインキュベートあおもり2004（ホテル青森） 主催：青森県，財団法人21あおもり産業総合支援センター	27日	研究推進委員会
17日	第2回「青森県木質バイオマス利用推進シンポジウム」(青森駅前再開発ビル「アウガ」5階AV多機能ホール) テーマ：『持続可能な資源循環型社会の構築に向けて』 主催：青森県 共催：弘前大学地域共同研究センター 9月6日企画委員会 青森県企業導入実行計画調査懇話会（ラ・プラス青い森 4階「ラメールの間」） 財団法人電源地域振興センター	29日	共同研究打ち合わせ（岐阜市）～3月2日
		3月 1日	第7回あおもり健康福祉機器開発協議会幹事会（弘前商工会議所会館203室） あおもり健康福祉機器開発協議会
		2日	TOHOKUクラスターコラボレーション2004（ホテル仙台プラザ）～3日
		3日	テレビ会議システムの接続テスト
		4日	研究成果発表会及び共同研究参加企業公募説明会（ラ・プラス青い森） 青森県工業総合研究センター
		5日	共同研究打ち合わせ（東京都，仙台市）～6日
		8日	平成15年度第3回事業可能性評価委員会（ラ・プラス青い森 4階「ラメール」

	財団法人21あおもり産業総合支援センター	24日	サテライト運営委員会
9日	客員教授業務報告会	25日	研究推進委員会
11日	地域共同研究センター運営委員会	28日	共同研究打ち合わせ（仙台市）～29日
	機器分析センター運営委員会		共同研究打ち合わせ （札幌市，東京都）～30日
12日	りんご産業クラスター形成研究会 平成15年度第三回事業分科会 りんご生産分科会	29日	産学官連携推進に関する打ち合わせ （仙台市）～30日
13日	産学官民の連携強化事業（東京都）～15日 韓国日本進出企業会（ipark）		平成15年度第2回青森県地域結集型共同研究事業研究交流促進会議 （ラ・プラス青い森 4階ラ・メール） 財団法人21あおもり産業総合支援センター
15日	海外の大学の調査研究・視察（中国 哈爾濱師範大学，鄭州大学）～21日	30日	平成15年度第2回全体会議 （青森商工会議所 2階会議室） 青森商工会議所ものづくり産業育成研究会
	りんご産業クラスター形成研究会 平成15年度第三回事業分科会 加工商品開発分科会 観光資源としてのりんご活用分科会	4月 5日	コラボ産学官設立総会・理事会（東京）
16日	りんご産業クラスター形成研究会 平成15年度第三回事業分科会 りんご加工残渣有効活用分科会		弘前市来訪
			青森県ナノテク推進G来訪
18日	第5回弘前産業振興懇談会		黒石市青年会議所来訪
	平成15年度第2回産学官連携・戦略的研究開発プロジェクト会議（ラ・プラス青い森 2階メープル） 財団法人21あおもり産業総合支援センター	6日	2理事と関係センター長等顔合わせ会議
19日	第3回環境調和型リンゴリサイクル研究会 （星と森のロマントピアそうま） 青森県工業総合研究センター	8日	地域新生コンソーシアム打ち合わせ 東京中小企業投資育成会社来訪
		13日	弘前市来訪 連絡調整会議
22日	弘前大学 「産学連携に関する講演会」 （弘前大学理工学部1号館 3階 第6講義室） 【講演題目】 我が国におけるこれからの産学連携 【講師】 荏原総合研究所代表取締役社長・東北大学名誉教授 橋本弘之先生	15日	記者会見 地籍管理/土地情報維持管理システム発表（八戸サテライト） 八戸インテリジェントプラザ未来技術研究棟竣工式
	東北地域医工連携シンポジウム （ホテルメトロポリタン仙台 4階千代の間） 高齢化社会対応産業クラスター協議会事務局	19日	地域共同研究センター運営委員会
23日	青森県・岩手県境不法投棄事案に係る風評被害認定委員会（第1回）（青森国際ホテル 5階「芙蓉の間」） 青森県県境再生対策室	20日	弘前産業振興懇談会 東北経済産業局・本部局長、弘前大学遠藤学長懇談（学長室） 平成16年度第2回あおもり健康福祉機器開発協議会幹事会 （弘前商工会議所会館203室） あおもり健康福祉機器開発協議会
		21日	国立大学法人岩手大学設置記念講演会並びにシンポジウム（ホテルメトロポリタン盛

センター日誌 平成15年12月～平成17年1月

	岡ニューウイング 4階メトロポリタンホール)		文化センター視察(イベント準備)
22日	高齢化社会対応産業クラスター協議会 16年度通常総会(仙台市)	6月 1日	2理事と関係センター長等懇談会
26日	CJR見学 21世紀教育センター	2日	弘前商工会議所 事業打ち合わせ
27日	CJRイベント企画委員会	4日	東京事務所採用面接
28日	理工学部博士課程設置記念式典	7日	社会連携委員会
	弘前市来訪	8日	地域共同研究センター運営委員会
5月 7日	企業等OBマッチング青森協議会 青森商工会議所		中小企業金融公庫来訪
10日	テラヘルツテクノロジーフォーラム第2回 研究会・見学会(東大駒場) 主催:テラヘルツテクノロジーフォーラム		第1回NICHeセミナー
11日	連絡調整会議		教育研究評議会
	教育研究評議会	9日	16年度第1回りんご産業クラスター形成研 究会 意見交換(青森市) 青森県農林水産部りんご果樹課
12日	総合文化祭実施委員会	10日	産学連携学会(福岡)~11日
14日	コラボ産学官理事会	11日	コラボ産学官交流会
	コラボ産学官開設記念式典(東京)	14日	北東北3大学理工学部長会議
	理工学部企業懇談会(理工学部)		9.6イベント企画委員会
18日	経営協議会学外委員への現状説明及び学内 キャンパス視察	15日	産業技術総合研究所東北センター 来セ 意見交換
	ネットワーク委員会	16日	産総研東北センター所長来訪
19日	弘前産業振興懇談会	18日	平成16年度第1回あおもり地域産業総合支 援会議(青森国際ホテル 2階「萬葉の間」) (財)21あおもり産業総合支援センター
21日	東北・新潟地区CD会議(会津大学)	19日	第3回産学官連携推進会議(京都) 出展(3展示ブース)~20日(日)まで
24日	青森県増殖センター訪問	21日	社会連携委員会
26日	総合文化祭実施委員会		ネットワーク委員会
27日	知的所有権センター来訪	23日	総合文化祭実施委員会
28日	特許流通アソシエイト来訪 連携相談&科学技術相談制度について	24日	弘前産業振興懇談会
	知財本部定例会議	28日	理事と関係センター長との打ち合わせ
	計量協会弘前支部来訪 計量教室開催の打ち合わせ		弘前市商工労政課来訪 弘前産学官連携フォーラム設立打合せ 9.6イベント企画委員会
31日	日本政策投資銀行所長来訪	29日	知財本部定例会議(帰属部会)
	都市エリア会議	30日	弘前技術研究所来訪 バイオマス研究推進について懇談

7月 1日	9.6イベント実行委員会	20日	知的財産審議会
	GIS普及活動情報交換会（青森市） 主催：J-時空間研究所 講師：人文学部後藤先生		弘前市商工労政課来訪 弘前産学官連携フォーラム設立説明
5日	9.6イベント実行委員会	21日	青森県林業試験場（青森市） バイオマス利用研究連携意見交換
	八戸地域高度技術振興センター高度技術利用研究会 総会&交流会（八戸市）	22日	八戸地域企業等訪問
	平成16年度定時総会 あおもり健康福祉機器開発協議会	23日	八戸地域企業等訪問 知財本部会議（帰属部会）
6日	2理事と関係センター長等懇談会	26日	社会連携委員会
	理事と関係センター長との打ち合わせ 弘前市商工労政課（理工・宮田研究室） 弘前産学官連携フォーラム設立説明	27日	地域共同研究センター運営委員会
8日	青森バイオマス事業協同組合（加藤研究室） 連携事業&共同研究等について意見交換	28日	コラボ産学官産学交流会
	青森県農林部りんご果樹課、津軽石川農協（後藤研究室） GIS活用連携について意見交換	29日	文部科学省研究協力・産学連携課 弘前大東京事務所・宇野C D紹介
9日	平成16年度第1回ナノテク・ステアリング会議 青森県商工労働部	30日	弘前市との意見交換会
12日	平成16年度第1回東北リエゾン機関ネットワーク会議 （かんぼヘルスプラザ仙台 2階 蔵王の間）	31日	大学院地域社会研究科と八戸地域振興研究者との意見交換会（八戸サテライト）
13日	NICHeセミナー 教育研究評議会	8月 2日	理事と関係センター長との打ち合わせ 秋田市チャレンジオフィス秋田来訪 入居企業との共同研究可能性調査 青森県農林部りんご果樹課来訪 連携事業の可能性について 弘前地域技術研究所生命科学研究施設提案 競技第1回審査委員会
14日	弘大農学生命科学部と県農林水産部との業務連携に向けた意見交換会 （農学生命科学部）	3日	2理事と関係センター長等懇談会 八戸地域企業等訪問 青森県工業会来訪
	弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究交流会	4日	八戸地域企業等訪問 弘前商工会議所 事業打ち合わせ
15日	八戸地域企業等訪問	5日	七里長浜港工場立地計画検討委員会 検討部会への委員要請&事前説明 青森県ナノテクG来訪
	弘前産業振興懇談会	6日	9.6イベント企画委員会 青森県技術士会来訪 八戸地域高度技術振興センター高度技術利用研究会 総会&交流会（八戸市） ～17日
16日	八戸地域企業等訪問		

センター日誌 平成15年12月～平成17年1月

7日	次世代産業創造フォーラム（八戸市） 主催：青森県工業会	7日	ニュージーランド オタゴ大学視察～12日 2理事と関係センター長等懇談会
9日	重点研究ヒアリング 計量教室 主催：計量協会弘前支部、CJR共催 講師：糠塚先生（理工） 張先生（農学生命科学部）	9日	弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究交流会
10日	第1回「産学官連携・戦略的研究開発プロジェクト会議」及び「同審査委員会」（ラプラス青い森） （財）21あおもり産業総合支援センター	10日	弘前市雇用機会増大促進協議会、 弘前商工会議所来セ アグリビジネス人材育成事業連携打合せ
12日	八戸インテリジェントプラザ来訪 バイオマスFS調査事業連携打合せ	13日	学位授与機構・大学評価インタビュー
24日	地域共同研究センター運営委員会 9.6イベント実行委員会	14日	連絡調整会議 教育研究評議会 NICHeセミナー
25日	国立大学共同研究センター専任教官会議（帯広）～27日	15日	東北地区共同研究センター連絡協議会（秋田） 熊本大学リエゾンオフィス（熊本） 意見交換、インキュベーション施設他視察
26日	医工連携研究会&交流会（理工学部）	17日	あおもり信用金庫総合企画部来訪
27日	弘前市との意見交換会	22日	平成16年度第2回産学官連携・戦略的研究開発プロジェクト会議審査委員会 （財）21あおもり産業総合支援センター
30日	コラボ産学官理事会（東京）	24日	知財本部会議（帰属部会） 弘前市来訪 都市エリア打ち合わせ 八戸インテリジェントプラザ・アイピー経済講演会（八戸市） テーマ：ナノテクマッチングフェア
31日	9.6イベント実行委員会 弘前産業振興懇談会 平成16年度第1回事業可能性評価委員会 （財）21あおもり産業総合支援センター	25日	大間漁協との共同研究室開設式典（大間）
9月 1日	総合文化祭実施委員会 青森県農業総合研究センター林業試験場、 プラムエコプロジェクト（農学生命科学部） 共同研究・連携相談	28日	地域共同研究センター運営委員会 イノベーションジャパン2004 （東京）～30日 出展 日本経済新聞インタビュー
2日	八戸市経済部産業政策課（八戸市） 意見交換会	29日	地域発先端テクノフェア2004 （東京）～30日出展 全国クラスターフォーラム （東京）～10月1日出展 コラボ産学官理事会（東京）
3日	八戸インテリジェントプラザ（八戸市） 連携事業打合せ 平成16年度「一日中小企業庁」ミニフォーラム「幅広い連携による地域再生-産学官連携を中心として-」（青森市）	30日	弘前産業振興懇談会
5日	9.6イベント準備（文化センター）		
6日	イベント「見てみて、聞いてみて、触ってみて弘前大学」		

10月4日	理事と関係センター長との打ち合わせ
	弘前市来訪
	青森県新産業創造課来訪
5日	2理事・関係センター長との懇談会
6日	県工業会産学連携フォーラム（八戸）
7日	第4回東北産業技術研究交流会（八戸）
	八戸インテリジェントプラザ（八戸市） 連携事業打合せ
8日	平成16年度東北地域産業技術懇談会 （八戸市） 講演：話題提供「産学官連携コーディネーターとしての活動から」
9日	北東北環境マネジメントシステム連絡会議 （弘前市）～10日 交流会(9日)講演会（10日）
12日	NICHeセミナー
	教育研究評議会
14日	全国共同研究センター長会議 （長崎）～15日
	アグリビジネス創出フェア東京 出展
	弘前市来訪
	G I S普及研究会（青森市） 主催：国土地理院
15日	第20回葛飾区産学フェア（東京）
18日	理事と関係センター長との打ち合わせ
	総合文化祭WG
19日	八戸インテリジェントプラザ・アイピー倶楽部・企業視察会（青森市・鶴田町）
20日	弘前地域技術研究所生命科学研究施設提案協議審査委員会
21日	弘前産業振興懇談会
	総合文化祭実施委員会
22日	弘前市との連携意見交換会
	北東北三行ビジネス商談会 （青森）パネル展示

25日	社会連携委員会
	青森県農林水産部農林水産政策課来訪
26日	地域共同研究センター運営委員会
	平成16年度「県誘致企業との懇談会」下 北地区
	八戸インテリジェントプラザ・アイピー倶楽部10周年記念講演会（八戸市）～27日 テーマ：地域再生に向けて 3大学・校長は 大いに語る
27日	知財本部会議（帰属部会）
	青森県工業会来訪
	平成16年度第2回東北リエゾン機関ネットワーク会議
	弘前市商工労政課来訪 フォーラム設立準備会
28日	弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究交流会
29日	平成16年度「県誘致企業との懇談会」三 八地区
30日	総合文化祭～31日 ・パネル展示 ・大間マグロ解体即売
	第2回青森・秋田・岩手デジタルコンテ ンツ研究交流会（十和田湖町）～31日
	11月1日
2日	2理事・関係センター長との懇談会
3日	A D派遣先大学中間評価 発明協会
4日	弘前市来訪
	コンソーシアム委員会
5日	東北経済産業局来訪
	企業2社訪問（鶴田、黒石）
8日	理事と関係センター長との打ち合わせ
	青森県商工振興課、青森県新産業創造課、 （財）21あもり産業総合支援センター、青 森県工業会、知的初秋県センター、企業1 社訪問（大鰐、青森市）

センター日誌 平成15年12月～平成17年1月

	平成16年度「県誘致企業との懇談会」東青地区	25日	「微細加工・計測研究会」講演会
9日	NICHeセミナー	26日	第4回弘前大学と八戸工業高等専門学校のシーズ提案会（八戸）
	連絡調整会議	29日	社会連携委員会
	教育研究評議会 企業5社訪問 （青森市、五所川原市、黒石市）	30日	弘前市との連携意見交換会 弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究交流会
10日	企業6社訪問（弘前市、平賀）		ビジネスプランコンペティション選考委員会（青森市）
11日	中小企業基盤整備機構東北支店 （八戸サテライト） 青森県工業総合研究センター八戸、八戸インテリジェントプラザ、青森県地域結集型研究室、八戸工業高等専門学校、企業6社社訪問（八戸市） 微細加工・計測研究会講演会案内 弘前市来訪	12月1日	あおもり県民政策ネットワーク
12日	企業3社訪問（弘前市、平賀） 日本食物繊維学会第9回学術集会 主催：日本食物繊維学会 日本化学会東北支部講演会＆交流会 （理工学部） 大学と地域の交流を深める化学プラザ - 産学官の先端から -	2日	東北IM研究交流会 （東北経済産業局、米沢市）
15日	企業1社訪問（弘前市）	3日	産学官連携マッチング交流会in弘前大学 （理工学部）
16日	青森県工業会研究部会 センター長講演	6日	理事と関係センター長との打ち合わせ
17日	青森デジタルアーカイブ推進協議会 （青森大学、青森市） 青森大学、青森商工会議所、企業4社 & GIS普及研究会との連携相談	7日	2理事・関係センター長との懇談会
18日	弘前産業振興懇談会	8日	青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所研究方針 & 研究成果普及発表会 （弘前市）
19日	第2回産学交流プラザ2004（東京）	9日	地域共同研究センター運営委員会
20日	産業ときめきフェアin EDOGAWA（東京）	10日	AD派遣先大学中間評価 特許庁 総合文化祭実施委員会
22日	理事と関係センター長との打ち合わせ 弘前市来訪	11日	岩手県立大学地域連携研究センター （滝沢村）
24日	知財本部会議（帰属部会） センター長講演（筑波） CJR見学 留学生	14日	ひろさき産学官連携フォーラム準備会 NICHeセミナー 連絡調整会議 教育研究評議会
		15日	青森県新産業創造課長との懇談 パソナ来訪
		16日	04地域産学官と技術士合同セミナー （青森市）
		17日	大間漁協との共同研究中間発表会（大間）
		20日	産学官共同研究の推進に関する意見交換会 産業クラスター青森地域連絡協議会 & 交流

	会（青森市）
	分野別（理工学部）専門委員会
21日	知財本部会議（帰属部会）
	中小企業基盤整備機構東北支店来訪
	弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究交流会
22日	弘前産業振興懇談会
	日本経済研究所ヒアリング
24日	ひろさき産学官連携フォーラム準備会
27日	岩手大学地域連携推進センター訪問
28日	(財)21あおもり産業総合支援センター来訪
1月 4日	地域共同研究センターの将来構想協議
6日	中小企業基盤整備機構来訪
7日	理事と関係センター長との打ち合わせ
11日	NICHeセミナー
	連絡調整会議
	教育研究評議会
12日	地域共同研究センター運営委員会
13日	弘前市誘致企業懇談会
	ビジネスプランコンペティション選考委員 会（青森市）
14日	青森県新産業創造課との打ち合わせ
17日	社会連携委員会
	ひろさき産学官連携フォーラム記念講演会
18日	産学連携マネジメント研究会（仙台）
19日	インテリジェントコスモス関係ヒアリング
20日	全国産学官連携CD会議（福岡）～21日
21日	弘前産業振興懇談会
	研究助成専門委員会 あおもり県民政策ネットワーク
24日	理事と関係センター長との打ち合わせ
	日本銀行青森支店長来訪

25日	東北経済産業局事業説明会
	弘前都市エリア産学官連携促進事業研究交 流会
	文部科学省訪問
26日	ベンチャーフェアJAPAN2005 （東京）～27日
	会議青森
27日	医学・バイオCD会議（群馬大学）～28日
	弘前市連絡意見交換会
28日	知財本部会議
2月 8日	連絡調整会議
	評議会
9日	地域共同研究センター運営委員会
	21あおもり産業総合支援センター来訪
10日	ネットワーク委員会
14日	中小企業基盤整備機構内藤様来訪
18日	ナノステアリング会議
	弘前産業振興懇談会
21日	医療・福祉関連ビジネス創出サロン （弘前市総合学習センター 1階 中会議室） 青森県新産業創造課
22日	バイオマス研究交流会（セミナー室）
	バイオマスシンポジウム
26日	平成16年度あおもり県民政策研究 研究成果発表会 ～生活創造社会の実現に向けて～ （青森グランドホテル 芙蓉の間） 主催：あおもり県民政策ネットワーク

地域共同研究センター運営委員会委員名簿

地域共同研究センター長	加藤陽治（委員長）
人文学部教授	香取薫
教育学部教授	北原啓司
教育学部助教授	芳野明
医学部教授	高垣啓一
医学部保健学科講師	三浦富智
医学部保健学科助手	野坂大喜
理工学部助教授	長尾至孝
農学生命科学部教授	宮入一夫
地域共同研究センター助教授	内山大史
社会連携課長	新谷哲雄

編集後記

CJRセンターニュース No. 11をお送りいたします。前回の発行からしばらく間が開いてしまいましたが、その間に大学は独法化され、組織としておおきく様変わりすることとなりました。私たち地域共同研究センターでも、兼任教官の増員、東京事務所の開設などを通してその組織を強化し、より多くの産学官連携の機会を創出しています。本号の表紙で取り上げた「見てみて、聞いてみて、触ってみて弘前大学」(2004.9.6 於弘前市文化センター)もそうした行事の一つであり、誰もが教員や大学院生と直接に話を交えることのできる場となりました。また、総合文化祭では共同研究を行っている大間漁協のご協力をいただいて「まぐろの解体・即売ショー」を催しました。「大学」「共同研究」などというどうしても堅苦しいイメージを持たれるとは思いますが、結局われわれは様々な意味での「豊かな人間生活」を目指しているのだと思います。どうぞどしどし「大学」を「利用」してください。豊かな生活へのヒントがそこにあるかもしれません。地域共同研究センターは、そういう多くの「あなた」の幸せへの扉口となれることを願っています。

当センターは、技術相談の窓口であり、また地域の皆さまと共に地域の発展に貢献することを目的としております。

お気軽にご相談ください。

国立大学法人弘前大学地域共同研究センター

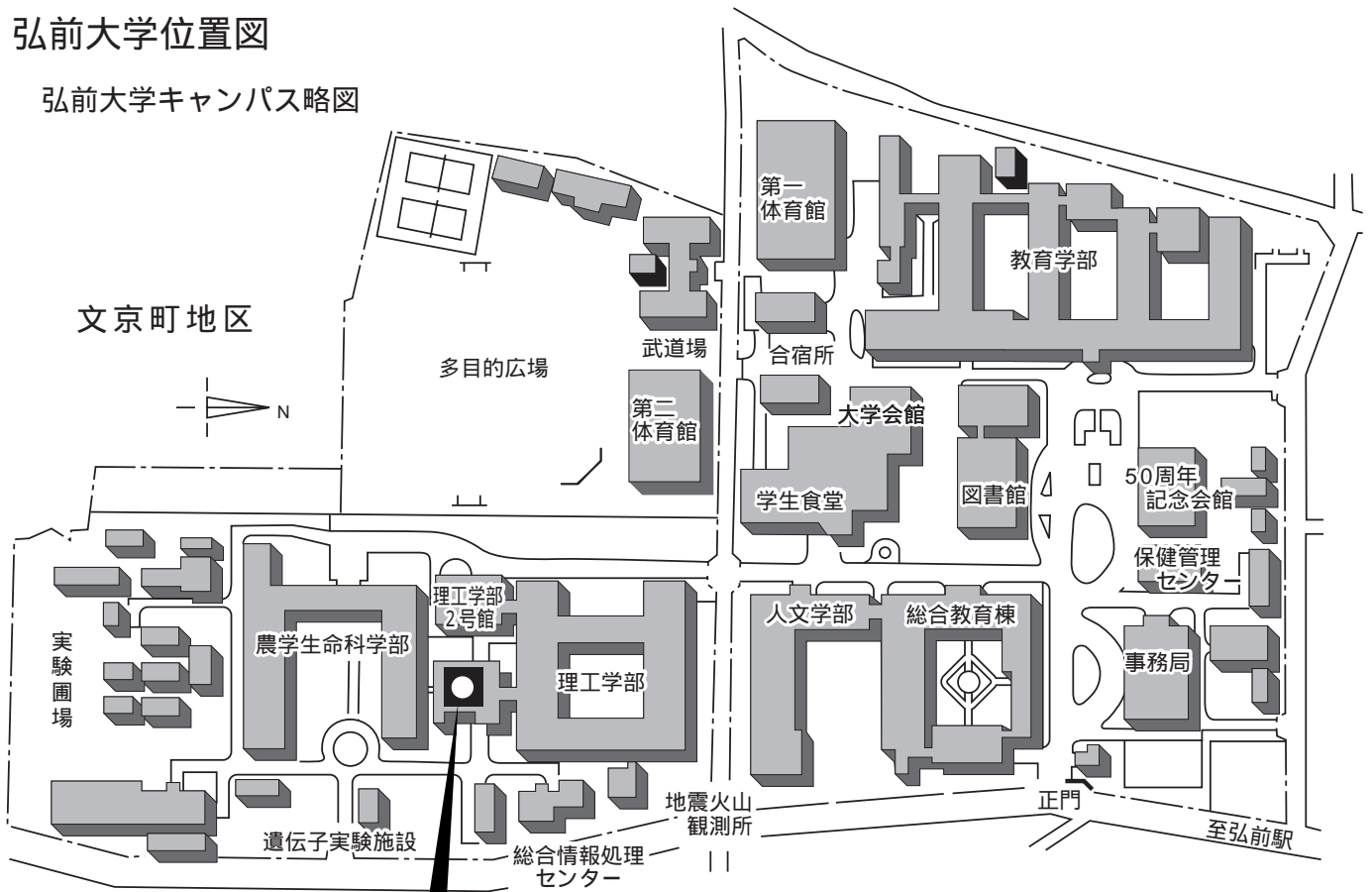
〒036-8561 青森県弘前市文京町3

TEL 0172-39-3176 FAX 0172-36-2105

E-mail cjr@cc.hirosaki-u.ac.jp <http://www1.cjr.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学位置図

弘前大学キャンパス略図



地域共同研究センター(コラボレーションセンター 1F)



交通案内

- JR弘前駅から弘前大学までは約2km
- JR弘前駅バス乗り場から「松原行」「狼森行」「自衛隊行」「聖愛高校行」に乗車、「弘前大学農学生命科学部前」下車。約10分
- JR弘前駅からタクシーで約5分
- 東北自動車道「大鰐弘前I.C.」「黒石I.C.」から約30分

